



よりよい入院治療と退院をめざして



尼崎総合医療センターでは、平成29年4月よりPFMと呼ばれる取り組みを開始しました。今回は、当センターにおけるPFMの取り組みと薬剤師の役割を紹介します。

PFMとは？

PFM (Patient Flow Management) とは、入院前から患者さんの情報を集めておくことで、体の状態や生活背景にあわせた入退院支援を提供するための取り組みです。医師や看護師、薬剤師などが専門性を担いながらチームとして連携し、安全・安心な医療を提供しています。

薬剤師の役割は、入院が決定した患者さんに対して入院前に面談を行います。その面談の中で、普段飲んでいる薬の確認や薬アレルギーの有無、健康食品やサプリメント服用の有無などについて聞き取りを行っています。特に、手術や検査を予定している患者さんについては、血液をサラサラにする薬やピルなどの手術の前に中止が必要な薬を内服していないか確認します。そして、中止が必要な薬がある場合は主治医に情報提供を行い、患者さんが適切に手術を受けられることが出来るよう支援しています。こういった情報を収集することで、よりよい入院体制を整えています。また、入院前に面談した内容を病棟薬剤師と情報共有することで、病棟業務の充実を図っており、患者さんに適切な薬を投与することができています。

★サプリメント服用されていませんか？

手術時に出血を引き起こしたり、使用する薬に影響を与える可能性があります。

問題なければ入院前は中止いただくことをおすすめします。

中止が必要なサプリメント

- ・DHA
- ・ニンニク卵黄
- ・EPA
- ・グルコサミン
- ・ヒアルロン酸

患者さんが安心して入院生活を過ごせるようにご協力させていただきたいと思います。薬剤師にお気軽にご相談ください。

